

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月2日(土)

《子どものように生きましょう - 悔しさも憎しみもなく - 》

国籍に関わらず、善い人、優しい人のことを表現する同じ言い方があります。どういう表現が分かりますか。「あの人は、天使のようだ」と言いますね。

皆様、「自分は天使のようだ」と思う人はいますか？ 誰も手をあげませんね(笑)。子ども達がたくさん集まって、きれいな声で合唱する時、みんな「天使のようだ」と言いますよね。そしてイエス様は、「心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」とおっしゃいました。つまり、子ども・天使のようにならなければ、天使のような生き方ができなければ、天の国に入れない、ということです。

さあ、どのような人を「天使のような人」と言うのでしょうか。善い人、心優しい人でしょうか。先ほど「自分は天使のようだと思う人は？」と聞いたら誰も手をあげませんでしたね。では、言い方を変えて「自分は優しいほうだと思う方はいますか？」天使がいなくて、優しいと思う方もいないのですね(笑)。

しかし、実際には天使のような性格、態度では、この世の中は生きづらいのかもしれませんが。優しい人は、社会的な価値で見たら『馬鹿』と言われる人々がほとんどでしょう。いつか話したことがあります。私たちもイエス様のために馬鹿にされるのが信者として一番ふさわしい生き方ではないかと思えます。社会的な見方で、「そんな馬鹿なことではできない。」「馬鹿のように人に責められたくない。」という思いばかり持っていたら、私たちは世俗的な考えから離れられないと思えます。誰からも「損になることばかりしている。」と言われたら、信者らしい生き方をしていると思って自慢をしてもよいと思えます。そういうことで悔しさを感じるようならば、その人は天使ではありません。逆に、他の人から「あの人は、少し馬鹿ではないか。」と言われるような生き方をしている、本人は悔しさも憎しみも持っていなければ、その人は天使でしょう。本当の天使でしょう。

皆様、私たちはイエス様と完全に同じ生き方をすることは不可能です。しかし、真似をしようと努力することは必要だと思えます。私たちが信じている救い主イエス様は、本当に馬鹿な生き方をした方でした。自分のことは全く考えず、人間の秤で考えれば利益にならないことばかりしていました。しかし私たちは、その魅力に縛られているのです。魅力を感じられれば、それは悪いことではないと思うでしょう。“もしできるならば、私もそのような生き方をしてみたい。”という気持ちにさせられると思えます。

今日の福音(マタイ 18・1 5、10)でもイエス様は、1人の子どもを弟子たちの真ん中に立たせて、「このような子どもを受け入れる人が一番天国にふさわしい。」とおっしゃいました。子どものような心を持って、馬鹿にされたことさえ意識しない生き方ができれば、私たちの道は成功したと言えるでしょ

う。

皆様、いろいろなことがあると思います。その時もし、「イエス様のためにこういうことを受け入れた。」という気持ちになれば、それは皆様がふさわしい生き方をしている一つの証拠ではないかと思います。しかし逆に、社会の人と全然変わらないような生き方、反応、態度を見せるのなら、神様に「私はこのような生き方をしてきました。」とは言えないでしょう。

では、子どものような人とはどういう人でしょうか。いつも申し上げていることですが、頼る心の持ち主です。人に頼る心ではありません。親に頼る心です。つまり、今日の福音では何があってもまずイエス様に頼る心を持たなければならない、とおっしゃっているのだと思います。

皆様、できるだけ優しい人間になりましょう。善い人間になりましょう。損になっても、譲ってばかりの生き方になっても、最後の冠を得られるのは優しい人だと思います。私達に本当に涙を流させるのは、優しい人と一緒にいる時であることを、もう一回意識しましょう。

皆様は、十分に優しく生きているのですから、評価するのではなく「出来るだけ優しく生きたい。」という気持ちを持つことが一番よいと思います。

皆様、優しい人は大体この世の中で負けます。しかし、最後の勝利は彼らのものであることを今日の福音を通して黙想してみましょう。

ありがとうございました。